

網走市

8325 多田時彦

1・網走の歴史

1-1 地名の由来

網走市の地名は多くの諸説があるが、中でも有力な説が三つある。そのどれもがアイヌ語を起源しており、一つ目は‘我らが見つけた土地’という意味の「ア・パ・シリ」、二つ目は‘入口の地’という意味の「アパ・シリ」、三つ目は‘幣場のある島’という意味がある「チバ・シリ」であり、アイヌ語を漢字に置き換えたのが「網走」だと言われている。

1-2 歴史

1872年に北見国網走郡の名前が与えられる。これが網走市の開基である。そしてアバシリ村が設置される。1875年にはアバシリ村に漢字を当てて網走村となる。また1890年には釧路集治監網走分監である網走囚徒外役所が開設。これは現在の網走刑務所の前身である。1891年に集治監の収容者の強制労働により北見方面への道路が開通する。1897年には網走港に本州から屯田兵の第一陣が到着する。1902年には網走郡の四つの町村、網走村、北見町、勇仁村、新栗履村が合併して、網走郡網走町ができる。その後1915年に能取村、藻琴村と合併、1921年には女満別村（現在の大空町）を分村した。しかし十年後の1931年には女満別町との境界線を変更する。また1947年には東藻琴村（現・大空町）と分村する。また同時期に市制を導入して網走市となる。1989年には東京農業大学オホーツクキャンパスが開学し、活気が出てきたように思われたが、2002年には主要な観光名所だった網走市オホーツク水族館が閉館し、ついに2007年には市制施行以来初めて人口が4万人を下回った。

2・地形

2-1 位置

網走市は北海道の東北に位置している。網走支庁には網走市よりも大きな北見市が存在するが、網走市が中心となって発展していったため、今でも支庁所在地は北見市ではなく網走市である。また近隣の市町村には最近東藻琴村と女満別町が合併して出来た大空町や原生花園で有名な小清水町がある。

図 1：北海道内での網走



出典：網走市 HP

図 2：網走支庁内での網走

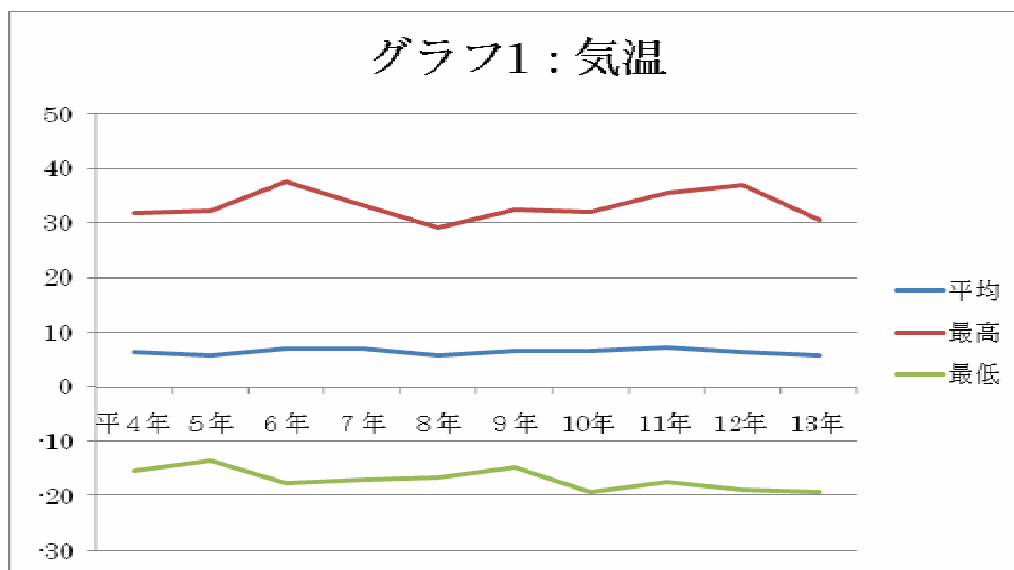


出典：網走支庁 HP

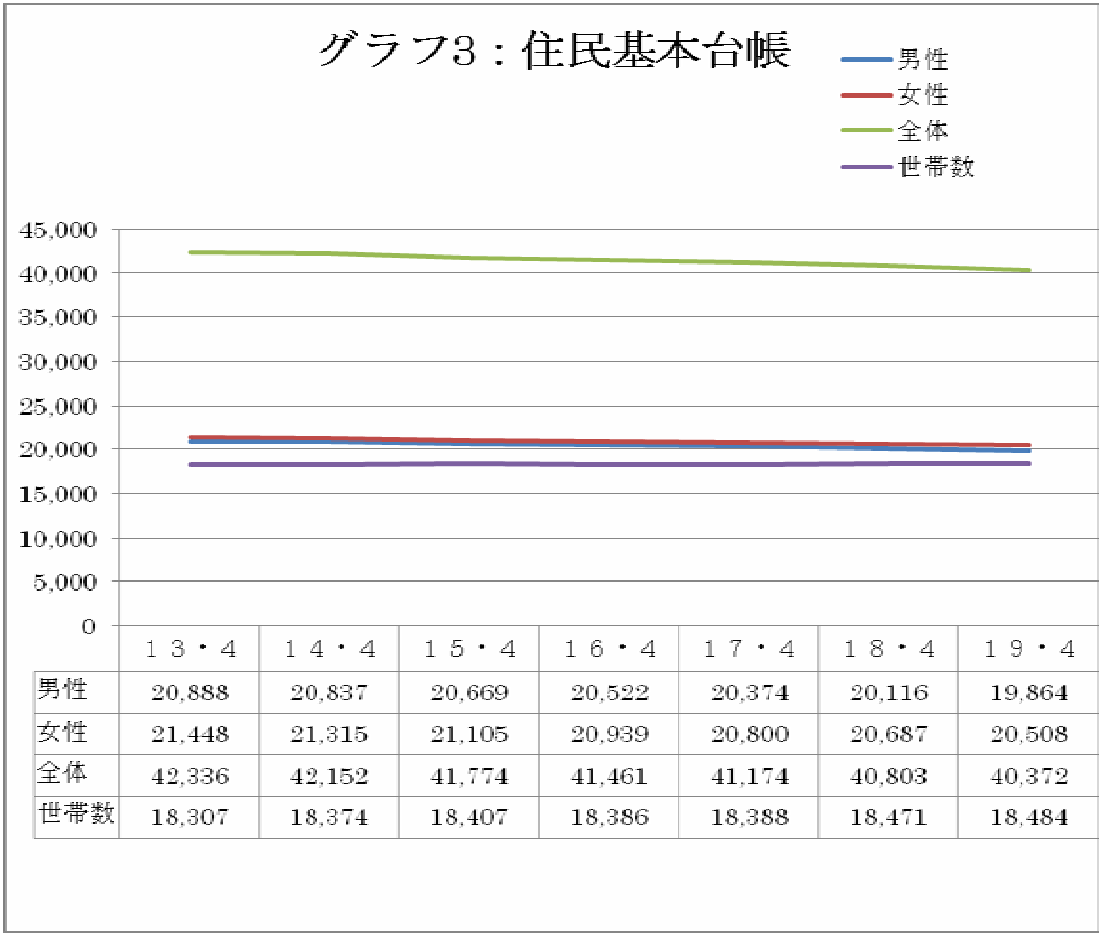
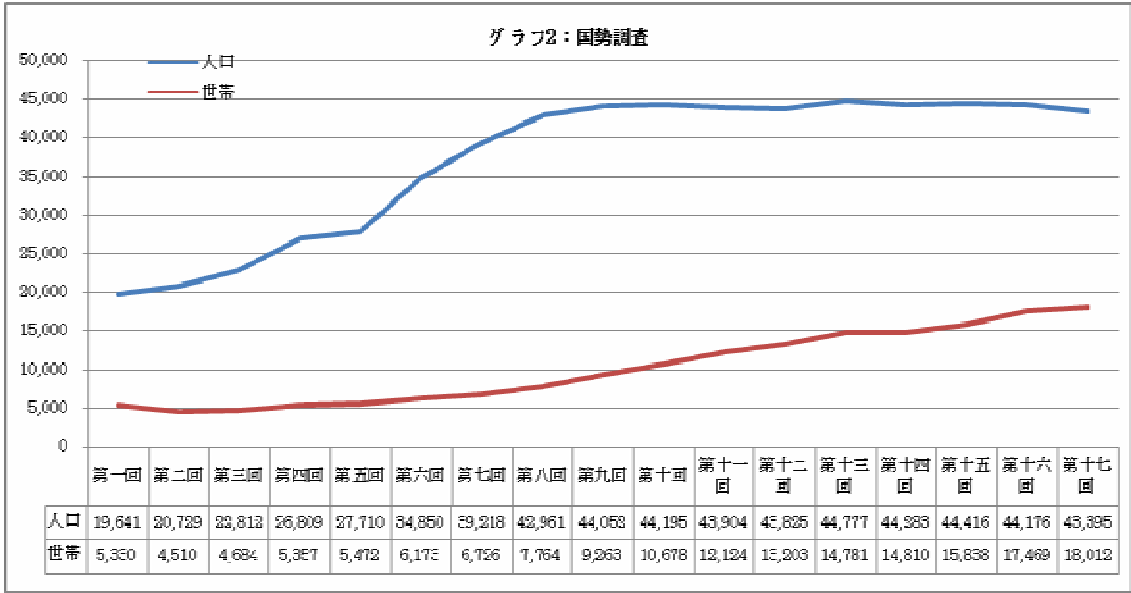
またオホーツク海に面し、漁業や流水をメインとした観光業など地理を生かした産業が特に発展している。

2-2 地理・気候

網走市の経緯は北緯 44 度 01 分 11 秒、東経 144 度 16 分 31 秒である。また網走の気温は、最高気温はほぼ毎年 30℃を超える真夏日を記録している。また逆に最低気温は－10℃を下回り、ひどいときには－20℃近くにまで寒くなる年がある。平均気温だけ見ると暮らしやすそうな気温だが、高低の差が大きく、季節によっては体調を崩しやすい。網走は山に囲まれていて季節風の関係で冬には吹雪が原因で学校が休みになったり、バスや JR などの公共機関が止まることという事態がたまにある。



3 人口・世帯数推移



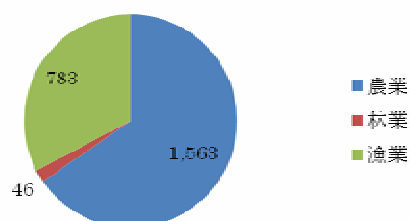
国勢調査をみると年々網走市の人口は減少傾向にある。しかし人口減少とは逆に世帯数の数はだんだん増加傾向にある。その原因はおそらく若者が進学や就職で網走から離れていくため人口が減少するが、その両親や高齢者の人などは町を出ていかないため、人口とともに世帯数が減少しないのだと思う。

それは住民基本台帳の短期のデータをみるとわかる。住民基本台帳からはついに人口が4万人を下回ったことがわかるが、世帯数の数は8年間でほとんど変化のないことが記されている。また男女の増減比率をみると、男性のほうが女性に比べて倍ちかく減少している。これは男性の方が親は進学に力を入れるということが関係しているのではないかと思う。

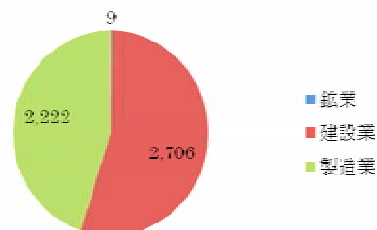
4・産業

4-1 漁業・観光業

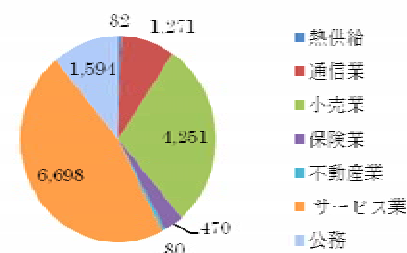
グラフ1：第一次産業就
職者数



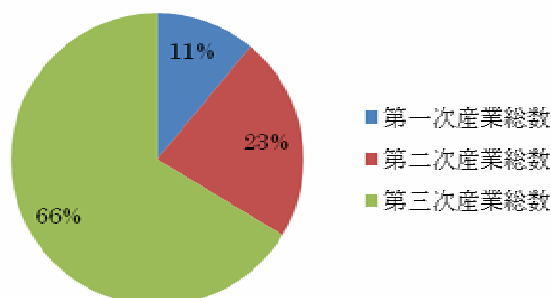
グラフ5：第二次産業就
職者数



グラフ6：第三次産業就
職者数



グラフ7：各産業の比率

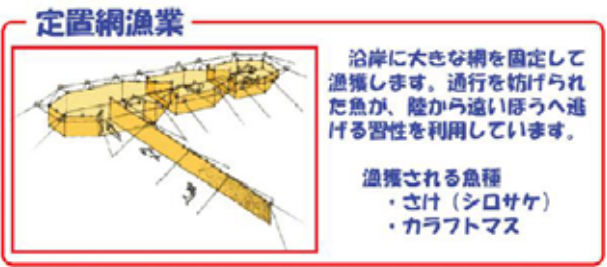


上のグラフからわかるように網走市は第三次産業の就職者が最も多く、その中でも特にサービス業が高い比率を占めている。つまりホテルなどの観光業が盛んであるということである。

このことから網走市で特に注目する産業は観光業である。また網走市の漁業は観光業と一体化しているので漁業も注目すべきである。

まず漁業を考えると、定置網漁業や底引網漁業などの漁法で、サケやマス、ホッケ、カレイなどの魚だけではなく、桁網漁業やじょれんびき漁業といわれる漁法で、ホッキガイ、シジミ、ホタテガイなどの貝類も主要な水産物となっている。

図1：定置網漁業



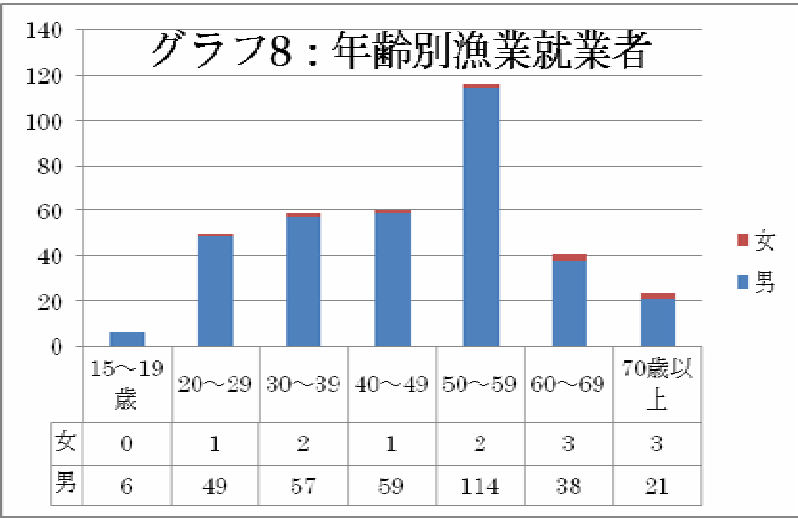
出典：網走市 HP

図2：じょれんびき漁業



出典：網走市 HP

しかし近年若者の漁業就業者の人数が減少してきている。確かに漁業は朝が早く生活の時間が普通の生活とずれてしまうが、若者が年長者から技術の継承をしなければ伝統の技術などが廃れてしまう。もっと漁業に対する関心を高める努力をしなければならぬ。

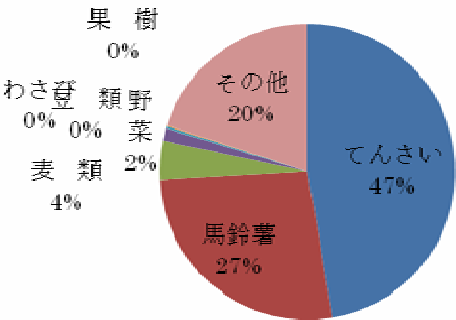


4-2 農業

網走市は約 11900ha もある広い農地面積があり、数多くの作物を作っている。

中でも大部分を占めているのがてんさいである。でんさいはビート、砂糖大根とも呼ばれ、砂糖の原料である。てんさいからとれる砂糖は全世界の砂糖生

グラフ9：農作物収穫量



産量の 35%を占めている。日本では北海道が主要産地で国内の砂糖生産量の 75%を占め、国内の砂糖消費量の 25%を占めている。

そのてんさいが網走の農作物のおよそ半分を占めている。確かに網走市の郊外には多くのてんさいを栽培している農家が多い。

また四分の一を占めている馬鈴しょとはじゃが芋のことだ。北海道は馬鈴しょの収穫量の八割を占めている。涼しい気候を好む作物なので、網走では丁度いい環境で作ることができるのだらう。

5・観光

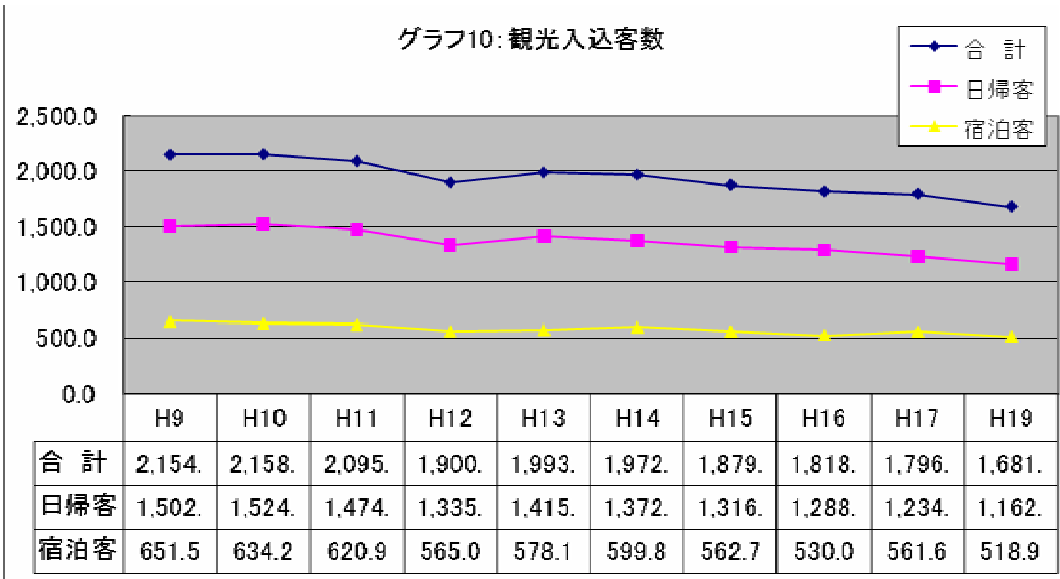
5-1 観光の問題

網走市は観光の名所となる場所が多く存在する。監獄博物館、流水、オホーツク流水館、流水観光砕氷船「おーろら」、クリオネなど他ではなかなか見ることのできないものがある。

しかし網走市の観光入込客数は年々減少している。特に目立つのは平成 14 年を境にして急速に観光客の足が遠退いている。この原因は網走水族館の閉館と流水の減少が問題だと思う。

まず平成 14 年に閉館した網走水族館は網走観光の大きな目玉で、閉館したのはとても大きな痛手だった。これにより二つ岩方面への観光がほとんどなくなり、古くからある商店街などには観光客が入らなくなってしまった。網走の地元商店街は閉店する店が増え、シャッターを下ろした店が多く目に付くようになってきている。

次に温暖化による流水の減少があると思う。流水は網走で最も大きな観光材料で、少なくなったり、来るのが遅かったりすると観光客は自然と少なくなる。



また流水が来ないと流水観光砕氷船「おーろら」が運行せず、網走市の財政に大きな痛手を与える。

この二つの要因が網走市の観光入込客数の減少ではないかと思う。これらを解決するには何か新しい観光の目玉を考えなくてはいけないと思う。水族館はすでにもうないし、流水は自然現象なので人の手ではどうしようもない。

5-2 観光の注目点

網走市の最も盛んな産業は観光業である。網走市には網走監獄や流水などの観光の目玉となるものがたくさんあるからだ。それにちなんだ監獄博物館やオホーツク流水館といった施設も存在する。

図 3：監獄博物館



出典：北海道観光タクシー 太斉の北海道タク

図 4：オホーツク流水館



出典：北海道観光タクシー
太斉の北海道タクシー観光

網走市の観光の目玉といえばやはり流水。その流水を見るのに一番適しているのはこのおーろらだ。氷を割りながら進む景色は壮大で、網走のおーろら、紋別のがりんこ号と二大砕氷船だ。一日 4 便から 5 便出航していて、およそ一時間の観光を楽しむことができる。

図 5：流水観光砕氷船「おーろら」



出典：網走市観光協会

図 6：ニポポ人形



出典：網走市観光協会

網走市の土産物といえばニポポ人形だ。ニポポとはアイヌの人たちがお守りとして持っていたものだ。現在は網走刑務所の受刑者が一つ一つ作っている。小さなものから大きなものまでたくさんある。

参考HP

網走市HP <http://www.city.abashiri.hokkaido.jp/>

網走支庁HP <http://www.abashiri.pref.hokkaido.lg.jp/>

網走市観光協会 <http://www2s.biglobe.ne.jp/~abashiri/>

北海道の公式ホームページ <http://www.pref.hokkaido.lg.jp/>

北海道タクシー観光 太斉の北海道タクシー観光

<http://www.tasai-saita.jp/index.htm>

ウィキペディア フリー百科事典

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%A1%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%83%9A%E3%83%BC%E3%82%B8>

農林水産省 HP <http://www.tdb.maff.go.jp/machimura/index.html>